

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

『第3回千葉県中核地域生活支援センターシンポジウム』のご報告

中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 所長
第3回千葉県中核地域生活支援センターシンポジウム実行委員長
西山 信男

第3回シンポジウムは、7月10日(日)に、千葉市蘇我勤労市民プラザで、天候にも恵まれ開催されました。NPO法人自立生活サポートセンターもやい事務局長の湯浅誠氏による基調講演「なぜ新たなセーフティネットが求められているのか」、シンポジウムはコーディネーターに中核センターを良く知る野沢和弘氏、コメンテーターに湯浅氏、そしてシンポジストに釧路市からパーソナルサポートサービス検討委員の日置真世氏、「地域福祉あんしん保証事業」を行っている三重県伊賀市社会福祉協議会の田辺寿氏、夷隅ひなた池口所長に「地域でセーフティネットを構築するために」をそれぞれの立場から、取り組みを紹介して頂きました。皆様にそれぞれの立場から、千葉県中核地域生活支援センターを浮き彫りにしていただきました。

また、中核センターあり方検討会で纏めた活動白書を元に基調報告も行いました。短い時間とスペースに活動の様々が網羅され、中核センターの取り組みがわかり易く、今後も活用出来る白書になっています。そして、何と云っても亡くなられた細渕会長が最後まで気にされた目標300人の集客は、400人を超える方が、県内はもとより全国からの参加者で満員になりました。

「残念」は、出演者の持ち時間が制限されて、急ぐあまり会場の皆さんに上手く伝わらないことが多々あったらと思う事で、1日通しての会でも良かったと、反省しているところです。

最後に、ご理解、ご協力をいただき参加された県、市町村、社協等の皆様に感謝申し上げます。

中核センターが期待されている役割は、身近な相談支援の場として活動し、一人一人の暮らしを守ることと、法律の及ばない役割とその輪を広げることです。まずは千葉県全体の事業になることを願ってやみません。



ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

「ちばMDエコネット」理事長 山田晴子氏

私の息子、晶生（あきら）にも障害があります。同じ年代の子がしている生活—自分の住んでいるところから地域の保育園や幼稚園に通って、家族同士も友達になり、お互いの家に遊びに行くなどの交流があり、そして近くの学校に通う—普通の生活を晶生に送らせたいという思いがありました。

26、27年前、障害のある子とない子が共に学ぶ「統合教育」を求めて活動していました。長い間、活動を行っていたなかで「高校入試」がとても大きな課題でした。いくら高校が定員割れだったとしても、入学試験で0点を取ってしまえば入学することはできません。障害のある人にとって、問題を読み、選択肢から回答を選んで記入するという一連の動作は、抽象的で難しいものです。私たちは障害のある子の高校進学の可能性を求めて、徹夜交渉をしたり、教育委員会にかけあうなど積極的に活動しました。これらの活動が実り、配慮制度がつくられ、介助員や先生をつけて試験が受けられるようになりました。また、障害のある子が入学したら、担任の先生の他に先生を派遣する制度もつくられました。「世の中は変わり得るんだ、変えられるんだ」と嬉しく思ったことを覚えています。

その後、運動を共にした仲間と「子どもの学校卒業後の道をつくりたい」という思いから、1999年にNPO法人を設立しました。現在、6人の障害のあるメンバーが高齢者多機能施設「高根台つどいの家」の掃除、ブルーベリー農園での作業、コミュニティカフェ「ひなたぼっこ」での仕事を組み合わせて働いています。将来的には、今でいう障害者自立支援法の就労支援を行っていきたいと考えています。

また、千葉県との協働で「ノーマライゼーション学校支援事業」という、障害のある子や発達にさまざまな子のある子の学校生活をサポートする活動をしています。学校で子ども自身や、家族が苦しい思いをしているということは、先生も苦しい思いをしているかもしれません。私は、元教員なので先生の大変さもわかります。先生が悪い、親が悪い、誰が悪いではなく、子どものために何ができるのか共に考えていけるようにコーディネートしたいと思っています。

障害のある子が生まれたとき、家族は2つに分かれると思います。一崩壊してしまう家族と、乗り越えようと結束力を固める家族。私は運が良く後者でした。運が良かったのだから、今の様々な活動を行うことは当たり前だと思っています。私自身も、色々な方の相談にのることで励まされています。私たちはたいしたことはできませんが、障害のある子ども一人ひとりを理解し、必要な手立てをきちんと積み重ねることで、本人が望んだ普通の生活ができるように、また、周囲も受け入れやすくなる環境をつくっていきたいと思っています。



事業所名 ■ 特定非営利活動法人 ちば MD エコネット
所在地 ■ 〒273-0005 千葉県船橋市本町 4-31-23
事業内容 ■ コミュニティカフェ〈ひなたぼっこ〉運営
ノーマライゼーション学校支援事業
障害者福祉作業所「ひなたぼっこ」運営

TEL/FAX ■ 047-426-8825

Eメール ■ sun@mdeconet.jp

H P ■ [http:// mdeconet.jp/](http://mdeconet.jp/)



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

【千葉県】ノーマライゼーション学校支援事業（千葉県とNPOとの協働事業）

フォーラム「障害のある子の充実した学校生活のために～通常学級での支援を中心に～」

〔内容〕 1、ノーマライゼーション学校支援事業報告

2、安住 ゆう子 氏 講演（NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ 心理士・所長）

〔日時〕平成23年9月3日（土）13時～16時

〔会場〕千葉市ビジネス支援センター会議室（きぼーる 13 階）

〔定員〕100名 〔参加費〕1000円

◆保育あり（定員5名、先着順） 費用500円（お菓子代込み）

◆手話通訳が必要な方は事前にご連絡下さい。※保育、手話通訳の申込締切：8月26日（金）

〔申込み〕氏名、所属、住所、電話番号（自宅/所属）を明記し、下記問い合わせ先へFAX、メール（件名に「学校支援事業研修申し込み」と明記して下さい）、電話のいずれかでご連絡ください。定員を超えてしまい、お断りする場合に限り、お申し込みいただいてから翌日までにこちらからご連絡いたします。

〔申込締切〕8月29日（月）

〔問い合わせ先〕NPO法人 ちばMDエコネット 事務局（コミュニティカフェ〈ひなたぼっこ〉内）

電話・FAX 047-426-8825 E-mail sun@mdeconet.jp

【千葉県】「救急の日」公開セミナー

～救急医だから伝えたい～ 千葉県救急医療センター治療最前線

〔内容〕最新の救急医療を、各診療科の医師が講義します。

1. 千葉県の救急医療体制について ～ センター長
2. 脳卒中治療 ～時間の重要性～ 脳神経治療科
3. 急性心筋梗塞 ～さまざまな治療の工夫～ 循環器治療科
4. 外傷の初期診療 ～予期せぬ外傷死を防ぐために～ 外傷治療科
5. 最新の熱傷治療 ～広範囲熱傷の治療～ 集中治療科

〔日時〕平成23年9月10日（土）13時～16時

〔会場〕千葉県救急医療センター2階会議室 〔定員〕60名（申込多数抽選）

〔申込み〕①住所②氏名③年齢④電話番号⑤質問事項を明記の上、下記までお申し込みください。

〒261-0012 千葉県千葉市美浜区磯辺3-32-1

千葉県救急医療センター「救急の日セミナー参加」係 E-mail kyukyu@mz.pref.chiba.lg.jp

〔申込締切〕8月22日（月）必着

〔問い合わせ先〕千葉県救急医療センター医事経営課 電話 043-279-2211

香取ネットワーク 所長 中塚 博勝

「24時間365日 いつでもだれでも」—中核地域生活支援センター香取ネットワークのご案内—

香取ネットワークは、JR佐原駅北口から歩いて10分足らずのところに事務所を開いています。この名称をお聞きになられただけで、その事業の内容をイメージできる方は少ないと思います。中核地域生活支援センター事業は、「誰もが、ありのままにその人らしく、地域で暮らすことができる地域社会の実現」のために千葉県が全国に先駆けて独自に設置した相談支援事業です。現在、県内の健康福祉圏域（健康福祉センターの管轄地域）ごとに13の事業所がおかれ、香取ネットワークもその内の一つです。

この事業の特徴として次のようなことが挙げられます。

1. 対象者や問題の内容を問わない～年齢や障害の有無、問題の内容を問わない暮らしに係るあらゆる相談に応じています。
2. 24時間・365日の相談支援体制～昼夜を問わず、平日も休日も相談をお受けする。対応の方法は、来所、電話あるいはFAXやメール、訪問等相談者の希望にそってお受けしています。
3. 権利擁護に対する特別な配慮～高齢者に対する虐待や権利侵害、児童に対する虐待、あるいは暴力等さまざまな理由で自分らしい暮らしを奪われている方々に対する支援。
4. 他機関との連携による課題解決～寄せられた相談の内容（課題）を解決するために、市町村行政機関、県行政機関、国機関、医療機関はじめさまざまな機関や団体、あるいは事業所等と連携を取りつつ対応しています。
5. 地域総合コーディネート～寄せられた相談の全てに応えられる地域資源が整っている地域はほとんどありません。そこで、新たなサービス作りのためにいくつかの機関が連携して検討会を行う、既存の機関が地域資源として機能できるように支援するなど、地域づくりに寄与する活動を行っています。

昨年度香取ネットワークでお受けした相談は4200件、生活保護に係ること、就労に関すること、医療に関すること、健康に関すること、介護・支援サービスに関すること、子育てに関すること、債務整理に関すること、独居の高齢者の生活や健康に関すること等、内容は実にさまざまであると同時に、問題の深刻さの度合いもさまざまです。これらの一つひとつ、お一人お一人にコーディネーターが寄り添いながら、問題の解決に向けて支援させていただいています。

少し前、受話器を取り上げると、「筍を頂いたが、お礼に何をあげたらよいですか。」

一瞬詰まりながら、相手の年齢、性別など尋ね、「あなたは何をあげたら喜ばれると思いますか。」としか答えられませんでした。後で、筍のお礼の他に何か聴いてほしいことはなかったのか自問していました。どうぞ、こんなこととためらわずに、どんなことでも香取ネットワークをご利用くださいますようお願いいたします。

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：香取ネットワーク（香取圏域）香取市北1-11-18 TEL:0478-50-2800 FAX:0478-50-2881

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匝ネットワーク（担当：丸山）までお願いします。